

サッカーで日露つなぐ

露で選手経験 武蔵野の三枝さん



UTLC杯を前に、ゲロム会長（右）と面会し、大会の成功を誓い合う三枝さん（6月22日、モスクワで）＝波多江一郎撮影

サッカー・ワールドカップ（W杯）ロシア大会を機に、日露のサッカー少年らが対戦する試合を企画するなど、両国の競技レベル向上に貢献している男性がいる。ロシアの下部リーグでプレーした際に築いた人脈を生かし、今月も両国のチームが出場する大会の運営に携わるため、8日に日本を出発してロシア入り。日露の懸け橋となろうと意気込んでいる。

少年らの試合企画

日露のサッカー発展に「役買っているのは、武蔵野市の三枝洋介さん（44）。中学生、高校生世代のサッカー交流や、プロのサッカー選手の移籍交渉などを手がける一般社団法人「EJU JAPAN SPORTS」の代表だ。

日本は1998年から毎回W杯に出場し、ロシア大会への出場も決めていたため、ロシア側から「日本のチームと対戦したい。チームを紹介してもらいたい」といった依頼が舞い込むようになった。

三枝さんは元々、陸上の短距離選手で、高校卒業後の19歳で単身ロシアに渡った。有力コーチに弟子入りしたが伸び悩み、コーチの助言でサッカー選手へ転身。4部や5部リーグのチームで33歳までプレーした。当時、ロシアで武者修行した日本人は珍しく、ロシアのサッカー界からの信頼も厚い。

昨年、ロシア1部リーグの名門ロコモティフ・モスクワの幹部から声がかか

り、同6月に同チームの17歳以下を日本に招き、筑波大学やFC東京の18歳以下のチームと交流試合を組んだ。

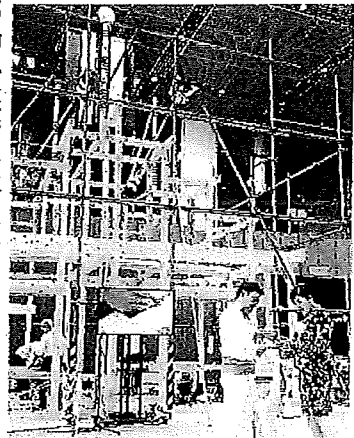
また今年8月13日以降、各国の14歳以下の強豪チームが競う国際大会「UTLC杯」など二つの大会がロシアで開かれるため、横浜F・マリノスなどの参加チームを紹介。W杯中の6月下旬には、UTLC杯を主催する鉄道会社のアレクセイ・ゲロム会長と面会するなどして準備を進めてきた。

ゲロム会長は「もはや日本はサッカー後進国ではなくレベルが高い。アジアの若い世代のチームが参加することで大会自体のレベルが上がる」と三枝さんの活動に感謝する。

三枝さんは「選手として大きな結果を残せなかつ

たが人脈は築けた。W杯で8強入りしたロシアのレベルは高く、W杯で身近な国となったと思うので、今後も日露の試合を企画するなどして両国のレベル向上につなげたい」と話している。

匠の技の祭典開幕 知事が視察



日本の伝統建築の展示を視察する小池知事（右）

伝統工芸や中小企業を支える全国の「匠の技」を紹介するイベント「ものづくり・匠の技の祭典2018」が8日、東京国際フォーラム（千代田区）で始まった。

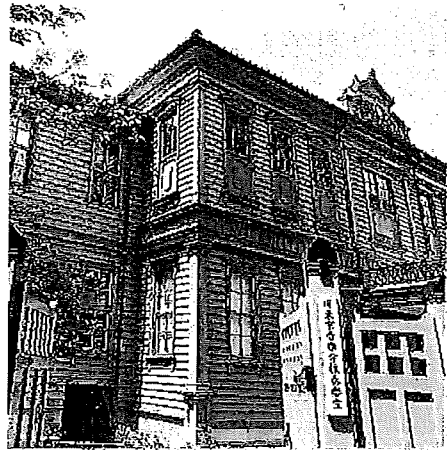
日本の暮らしを支えてきた優れた技術を発信しようという趣旨で、今年で3回目。今回は約70団体が出展し、大工体験が出来る伝統

建築の展示、左官、造園など様々な分野の技術が集まった茶室の展示のほか、江戸切子などの工芸品の体験・販売が行われている。入場無料で、10日まで行われる。

8日に視察した小池知事は「江戸から続く技術や先端技術を披露する貴重な場。ぜひ実際に見ていただきたい」と話していた。

再開館事業 参加を

11月 内覧会や演奏会



深学校楽楽堂の外観（台東区提供）

朝鮮人慰霊で要請書

関東大震災時にテマによって虐殺された朝鮮人の慰霊式典の実行委員会が8日、都庁を訪れ、今年9月の式典に追悼文を寄せるよう求める小池知事宛ての要請書を提出した。

小池知事は昨年、「（大震災で亡くなった）すべての方々への法要を行っていきたい」との意味から、特別な形での追悼文は控えたい」として、墨田区内で毎年9月1日に行われてい